

カップを積み重ねたりピラミッド状に積んで崩していき形を変化させていく活動をしています。始めの頃はカップを並べていくと直ぐに手を伸ばしカップを取っていつてしまいましたが。しかし進めていくうちに「1. 2. :」と数を数えながら並べていくと、その様子をジッと見るようになっていきました。カップを4段のピラミッド状に積み完成すると直ぐに近づいてきて手を伸ばし倒します。カップが倒れていくと職員の顔を見て得意気な様子で笑顔を見せます。倒すことが楽しいと感じているようでした。回数を重ねていくうちにピラミッドが完成していく様子を見上げるようになっていきました。カップが積まれていくリズムや積んでいく職員の手の動きも面白いようです。「1. 2. :」と数えながら積んでいき「10」でピラミッドが出来上がるまでをジッと見て期待をしているようです。そして、完成して少しすると手を伸ばして倒します。カップが全て倒れるまで何度も手を伸ばして倒そうとしていました。倒しきると職員を見て満足そうな様子で笑顔を見せました。



ほくとの
日常活動紹介
松本 悦子

Aさん(横地分類A4)は職員がそばで積み木を高く積んでいくとじっと視線を向けていることがあります。積み木が高くなってくると積み木の上にのせるときの職員の手元やのせている積木にぐっと焦点が絞られ、より集中して見

ている様子があります。また、はさみで紙を切っていくと刃先の動きに注目し、直線から曲線に切り方を変えると表情が変わります。道具を使いものの形が変わっていくような細かな動きの変化にも興味を示し、面白さを感じているように伺えました。

活動では縫い物や小さな紙にボールペンで線や図形を描いていくこと、道具や手を使って粘土の形を変化させることなどを見て楽しめるような活動をしています。

職員が横に座り、掌ほどの大きさの布を縫っていくと、布の裏側から針の頭が出てくるときにぐっと視線を向けています。そこから針を引き抜いていく職員の手元や糸が次第に長くなっていく様子をよく見えています。何回か針を刺したり、糸を引き抜いたりを繰り返していくと次第に体が前のめりになり、より真剣な表情でみています。布に糸で線が描かれていくことや、縫いつけた部分が糸の色で変わっていくことにも面白みを感じているようでした。最後に針に糸を巻きつけ玉留めをするとそれまでの動きとの違いを感じていました。



押したり丸めたりしながら粘土の形を変えていくと、はじめは粘土の塊を持っている方の手に注目をしていますが、反対の手で千切り粘土板に並べていくと、職員の手動きを追うように視線を移していました。千切った粘土を粘土板に並べると今度は粘土の塊を持っていく方の手に視線を向け、次の動きを待っているようでした。握っている手の平から次々と粘土が出てくるようにも見えるのか、時折覗き込むようにして見ていることもありました。千切り終えた粘土を再び集め、粘土板の上でこねたり、棒で叩いたりして塊に戻していく手作業にもじっと視線を向けています。やってみますかとAさんに声

を掛けて粘土を側に置くと、ぱっと目の輝きを増したような表情に変わり、職員と同じように粘土を転がしたり、棒を持って粘土を叩いたりする様子がありました。人が手作業をする動きや、物の形が変わっていくことに面白さ感じて、自分もやってみようという気持ちが生えているようでした。

